

第5期上下水道事業経営委員会（第4回）の主な質疑

【意見受付期間】

令和6年3月4日（月）～令和6年3月11日（月）

質 疑		回 答	
【議事 令和6年度予算について】			
A 委員	経営環境が厳しい中で、長期計画に沿い適切な予算編成と執行がなされていると評価できる。上水道・下水道事業ともに未普及地域の解消や施設・管路の老朽化対策、耐震化対策といった事業はもちろん重要だが、今後は人口の減少や人口密度の低下といった事業の根幹に関わる諸要因を予算編成や執行に組み込む必要がある。	上下 水道局	「高岡市上下水道ビジョン」では、人口の減少による料金収入の減収や、施設の更新需要の増大を見据え、更新需要と財政見通しを的確に把握するための将来の収支予測を行い、更新需要の平準化や事業費の抑制等に努め、収支均衡を維持していくこととしており、その計画に基づき予算編成や執行に取り組んでいる。 今後ともご意見を頂いた諸要因を踏まえ、引き続き、収支均衡を維持した経営の健全化に努めてまいりたい。
B 委員	スマートメータや漏水常時監視システムなどD X設備が、今回の震災に対し、有効に働いた事例はあったか。	上下 水道局	今回の震災においては、スマートメータを導入している地区の遠隔通信で取得した使用水量データ（1時間単位ごとの取得）と配水池の流出量を照らし合わせ、漏水の有無を迅速に把握し、被害が発生しなかった旨を確認した。今後もスマートメータによる漏水の早期発見に努めてまいりたい。 また、漏水常時監視システムについては、震災時に1箇所の漏水を早期に検知し、迅速な修繕を行うことができたことから、断水による市民生活の影響や交通インフラへの二次被害を未然に防ぐことができた。 今後もD X設備を活用した上下水道事業の効率化や迅速化に努めてまいりたい。
D 委員	D Xの取り組みによる上下水道事業の費用対効果はどの程度か。今後の委員会等で見える化してはどうか。	上下 水道局	現時点ではD Xの取り組みによる費用対効果を検証することはできないが、様々なD X設備の導入により、より一層の事業運営の効率化、水運用の最適化、施設管理の高度化を推進しており、今後、D Xの取り組みで得られた費用対効果が発現した時点で委員の皆様方に「見える化」したいと考える。
B 委員	震災対応の国庫補助があると思われるが、十分活用して復旧・復興をお願いしたい。	上下 水道局	被災箇所の復旧・復興については、公共土木施設災害復旧事業国庫負担法に基づく国庫補助の対象となることから、その補助事業を十分活用し、一日も早い被災地の復旧・復興に取り組んでまいりたい。

C 委員	水道事業会計及び下水道会計の収益的収入の前年度予算対比について、これらには強い相関関係があると思われるが、予算案の増減率では△5.4%、△0.7%と乖離があり疑問に思う。	上下 水道局	R6年度の水道事業の収益的収入のうち、増減が大きかったものに受託事業収益があり（前年比△226,559千円）これは国吉配水場の整備に係る県企業局の負担分がおおよそを占めている。国吉配水場の県企業局負担に係る整備事業はR5がピークであったことから大きく減額となり、収益的収入全体を押し下げることとなった。 料金収入という観点では、水道事業では△1.3%、下水道事業では△1.2%と、類似したものとなっている。
	水道事業の水道管路等整備費が前年度△223,571千円と大幅な減額となっている。この予算案で耐震化など適切な管路の更新が行われるのか疑問に思う。	上下 水道局	前述した受託事業収益は工事費用等であり、受託事業費として支出される。受託事業費中、国吉配水場の県企業局負担分の支出が△211,068千円であったことから整備費全体の減額につながった。 R1～R3の平均整備事業費は約12.2億円で、R6予算は約18.9億円であることから比較すると約6.7億円の増額となっており、耐震化などに鋭意取り組んでいるところである。

【報告 アルミボトル缶「高岡の水」の販売及びアルミ缶の回収について】			
A 委員	アルミボトル缶で飲料水を販売するメリットは、SDGs、長期保存（災害用備蓄）、紫外線、火・熱などへの対応に秀でているといった特長にある。使用後のボトル回収も考慮されている。 また、価格も税込み100円と低廉に抑えられている。あとは売れるキャッチコピーを作ることが必要である。	上下 水道局	令和6年度に富山大学芸術文化学部と連携してアルミボトル缶「高岡の水」を活用した本市の水道水のおいしさや観光PR等の更なるPRや認知度向上に関する官学連携事業を行う予定である。 今回、委員の皆様方からいただいた意見を踏まえ、環境部局と連携したアルミリサイクル施策の「見える化」の推進や、災害用備蓄飲料水としての更なる活用等に取り組んでまいりたい。
B 委員	消費期限が長いので災害備蓄用としての活用が有効と考えられる。1リットル缶など大きなサイズの缶ができればよい。		
	プラスチックの環境負荷を減らすための施策として評価できる。一般のメーカーによる飲用PETボトルの削減にも高岡市が働きかけて貢献できるとよい。 製造者としてアルミボトル缶の回収・再資源化に責任を持つ必要がある。「高岡の水」単独の回収は考えられないため、販売店、スーパーとの提携、家庭系資源ゴミとしての収集など回収システムを把握して取り組む必要がある。		

D 委員	アルミ缶自動回収機の設置による資源循環の取り組みは大変素晴らしいことである。コストの問題もあるが、今後設置場所を拡大する予定はあるか。		
C 委員	リサイクル率の観点からは、良い取り組みであると思うが、この保存容器の変更により消費期限等保存期間が長期になればなお良い。		
F 委員	アルミ缶回収機については、先日実際に利用させていただき、良い活動だと感じた。「高岡の水」については、自販機での販売で今後のPRと販売での認知度向上に繋がられる思う。		

【報告 令和6年能登半島地震への対応について】			
A 委員	報告書を見る限りでは迅速に対応されていることがうかがえる。断水になった場合、住民にとって最も欲しい情報は「水道や下水道がいつ頃復旧するのか」ということである。見通しが立たないことに不安を覚えるので、各種情報手段・情報網を利用してリアルタイムで情報をすべての市民に提供することが必要である。また実施していること（復旧工事等）の可視化も重要である。	上下 水道局	今回の震災においては、大規模な断水への対応状況や復旧報告、給水所の開設状況等を、本市ホームページやSNSの活用により常に最新の情報を提供し、市民の皆様方の不安を少しでも解消するための取り組みを積極的に行った。 また、2月27日から3月1日にかけて、地震の被害が大きかった地区の住民を対象とした被災者支援に関する説明会を開催し、支援策の概要や道路や下水道の復旧手順を説明するとともに、具体的な取り組みを加速するためのロードマップを作成する旨を説明し、被災者の切実な思いを確認した。
B 委員	被害のあった地域は液状化現象が起こりやすい地質のようだが、耐震管でも被害があった箇所はあるのか。能登では耐震管でも被害があったと聞いている。もちろん従来計画どおり、基幹管路を中心に耐震化は今後も進めていく必要があるが、ネットワーク化あるいは二重化されていない配水管があるなら、ネットワーク化・二重化して配水停止を最小限にすることも必要と思われる。	上下 水道局	液状化地域で漏水を多数発見し修理を行ったが、耐震管路での被害はなかった。 本市では、地震等の災害発生により断水した場合の影響が極めて大きい基幹管路の更新を最優先に進めるとともに計画的に老朽管の布設替にも取り組んでいる。 また、有事の際、近隣事業体との広域的な水の相互融通が可能な災害対策等連絡管（氷見市、射水市、砺波市）の整備を行い、定期的に運用訓練も実施している。 今後、市内の各配水区間における連絡管の整備を進めるとともに、被害を最小限に抑える復旧体制の構築に努めてまいりたい。

	断水や下水道が使用不可となった場合の緊急的な対策を検討しておく必要があると考える。防災井戸・移動式トイレの公共施設への設置、地下水利用の専用水道、消雪用水の活用(提携)、山間部の沢水利用システムなどを計画的に取り組んではどうか。	上下 水道局	ご提案のあった内容について、今後、関係する部局に情報提供するとともに、連携して調査・研究に努めてまいりたい。
--	--	-----------	--

【その他 ご意見・ご感想】			
A 委員	人口減少・人口密度の低下の下で、これまで以上に地震や雨水等による災害が予想され水道サービスの提供は一段と難しさが増していく。未来を予想しながら事業、資金計画を綿密に練っていく必要がある。		
C 委員	能登半島地震のような規模の地震が万が一高岡市において発生したと想定して、奥能登のように長期間にわたる断水が生じないよう適切な耐震化や管路更新などの対応をお願いしたい。		
E 委員	今後収入が減少していく中で、計画的な設備更新や維持管理は、本当に重要だと感じる。		
	アルミ缶について、リサイクルは勿論、保存期間も含め、とても良いと思う。 「高岡の水」がアルミ缶のリサイクルも含め、オール高岡市内で循環すれば、もっとインパクトがあるように感じた。		
	水道が出ることが当たり前になっていたため、今回の能登半島地震による断水は、本当に水道の有難みを痛感した。断水の期間中、給水車や、復旧の進捗状況について HP や SNS を通じて情報が確認できたことは、安心につながる。県外から給水車のサポートがあったことも驚いた。道路については、応急的ではあるが、短い期間で車両が通れるようになったと感じる。しかし、一部の地区では、排水整備の復旧がまだまだ進んでおらず、一日も早い復旧・復興ができればと思う。		
F 委員	市内でも能登半島地震による被害が出ている中、迅速な対応ができていること、また、被害の大きい石川県七尾市への支援活動ができていることは良いことと感じる。この経験を今後にも生かしていただきたい。 能登半島地震の発生で、日頃から災害時における対応ができるようにしておくことの重要性が再認識出来た。今後も災害時、今回以上により良い対応ができればと思う。		
G 委員	人口減少が進む中、こうなるだろうと感じる予算であった。		
	アルミ缶自動回収機では、3 か月で 1,400 本の回収実績があったようだが、他のリサイクルルートに出されているものもあると感じる。		